

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	書写
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・巻頭に毛筆、硬筆それぞれの正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、後片付け、構え方を、写真及びイラストで3ページにわたり示している。
	観点2	・学習の冒頭に目標と自分の課題を考えさせ、課題を解決するための練習→学習したことの他の文字への汎化→自己評価→日常生活への活用→発展的な学習という学習の進め方となっている。
	観点3	・巻末資料は35ページに渡り、日常生活に生かす内容や書写の歴史、伝統的な言語文化に関する内容が掲載されている。5発行者中で2番目に量が多い。
	観点4	・楷書の基本点画について写真で筆遣いを示すとともに送筆について擬音を入れて示している。 ・行書の動きのパターンを4つに整理し、文字のどの部分に動きのパターンが生かせるかを書き込ませるようになっている。
	観点5	・学習や日常生活と関連付けがなされた単元の数は、各学年とも5単元掲載されており、5発行者中で最も数が多い。
11 学図	観点1	・巻頭に毛筆、硬筆それぞれの正しい姿勢、筆の持ち方及び腕の構え方、墨のすり方、筆の各部の名称と働きの写真を1ページで示している。
	観点2	・試し書きによる課題設定→練習→まとめ書き→毛筆での学習をもとに硬筆での練習という学習の進め方となっている。
	観点3	・毛筆教材数が1学年8教材、2学年8教材、3学年4教材と、5発行者中で最も多い。
	観点4	・書き順を数字で示している。
	観点5	・3学年は、全単元を「書写を生活に生かそう」として、職場体験の礼状、年賀状、短冊、色紙、額等の作品作成を掲載している。
15 三省堂	観点1	・巻頭に毛筆の正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、片付け方について、写真及びイラストで、3ページにわたり示している。
	観点2	・「考えよう・話し合おう」として課題意識の確認→硬筆と毛筆で書いて確認→自己評価→学習のまとめとして硬筆教材での確認・定着→日常生活への活用という学習の進め方となっている。

	観点3	・「書いて確かめよう」として、毛筆で学んだことを確認・定着させる硬筆記入欄が22ページと5発行者中で最も多く設けられている。
	観点4	・行書の特徴を青の矢印、囲み、青字による書き込みで示している。また、筆脈を青の点線で示している。
	観点5	・単元の終わりに「生活に生かそう」というページがあり、学習したことを日常の掲示物や記述の場面で活用させるようにしている。
17 教出	観点1	・巻頭に毛筆の正しい姿勢、鉛筆、ボールペンの持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、墨のすり方、後片付け、構え方、筆の各部分の名称について写真で3ページにわたり示している。
	観点2	・硬筆や毛筆による「試し書き」→試し書きと教科書の文字の比較による自己課題の発見→毛筆の別の課題または硬筆課題での定着→「まとめ書き」で学習の定着の確認→自己評価→日常生活への活用という学習の進め方となっている。
	観点3	・総ページ数が1学年56ページ、2学年40ページ、3学年17ページと、5発行者中で最も多い。
	観点4	・筆順や形の特徴、筆脈に加え、中心線を示している。
	観点5	・全学年に「学習を生かして書く」が設定されているほか、学習や日常生活と関連付けがされた教材が多く掲載されている。
38 光村	観点1	・巻頭に毛筆の正しい姿勢、鉛筆の持ち方、筆の持ち方、用具の置き方、後片付け、構え方について、写真で、2ページにわたり示している。
	観点2	・学習課題の確認→「学習の窓」による留意点の確認→練習と仕上げ→硬筆による学習の確認・定着→自己評価→次の学習に生かすという学習の進め方になっている。
	観点3	・巻末資料は50ページに渡り、日常生活に生かす内容や書写の歴史、伝統的な言語文化に関する内容が掲載されている。5発行者中で最も多い。
	観点4	・薄墨と朱の二色で筆遣いを示し、行書の特徴を丸で囲み、赤の太字で書いている。
	観点5	・「資料編」で日常生活での活用及び情報活用、図書館活用、学校行事への活用の教材を掲載している。